
中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

2007年8月6日号

◎2007年6月小麦市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2007年6月における小麦市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

1 夏糧はさらなる豊作、地域を越えた農業機械の導入により小麦の収穫ロスが減少

2007年の夏糧（夏季に収穫される食糧の総称で大部分は冬小麦、ほかに大麦、燕麦、ソラ豆、エンドウなど。夏糧の生産状況が、その年の食糧生産予測のキーポイントになるといわれている）生産は、多くの不利な条件に曝されてきた。冬には深刻な干ばつの発生と暖冬による徒長（水や肥料の過多、光線不足、通風不足、気温上昇などで茎や枝葉が無駄に伸びること）が相前後して発生し、春には広範囲にわたる低温凍害が二度にわたって発生、5月中旬には黄淮海地区で干熱風及び病虫害の発生が重なるなど、多くの試練があったものの、最終的な収穫は良好であった。農業部は、今年の夏糧生産量は前年比1.9%増、4年連続の豊作と予測している。

2007年の「三夏」（旧暦の夏の3カ月）の麦の収穫作業は順調に進んでおり、これには地域を越えた農業機械導入の功績を忘れることができない。「三夏」期間には、全国で収穫機械が前年比2万台増の40万台導入され、ピーク時には同4万台増の29万台の収穫機械の投入により、1日当たりの最高収穫進度は同400万畝（畝：ムー／1畝＝15分の1ヘクタール）増の2千万畝に達した。夏の収穫期間中には、二度の大きな降雨があったが、収穫進度は前年より2日前後速いペースである。

2 1～5月の小麦輸出は大幅増、輸入は減

海関統計によると、5月の中国の小麦輸出は引き続き大幅増となったが、輸入は比較的低位水準で推移した。当月の小麦輸出量は前月比1.11倍の25万トン、輸入量は同27.15%減

の0.25万トンとなった。1～5月の累計小麦輸出量は前年同期比1.13倍の62.73万トン、累計輸入量は同74.50%減の6.85万トンとなった。小麦の主要輸入相手国は、カナダ及びオーストラリアである。

3 国内の小麦供給は需要を満足、国際小麦在庫は最近30年で最低

【国内市場】2007/08年度（2007年6月～2008年5月）における中国の小麦消費総量は、前年度に比べ若干の増加が見込まれている。うち食用消費量はやや減少するが、国内の畜産業の発展や、小麦とトウモロコシの価格比の変化、バイオエネルギー需要の影響などを受け、飼料消費量及び工業用消費量は増加することが見込まれている。今年度の国内の小麦供給量は、需要を満足できるものと予測され、国内における小麦の期末在庫量は、前年度に比べ小幅ながら増加することが見込まれている。

【国際市場】米国農務省（USDA）の今年6月の発表によると、2007/08年度における世界の小麦生産量、消費量、期末在庫量及び貿易量は、前月を下回るとされる。ただし、前年度と比べると、生産量は小幅ながら増加するとみられている。同年度の世界の小麦は種面積は、前年度比1.74%増の2億1,741.5万ヘクタール、生産量は同2.7%増の6億1,015万トンで、前月に予測された数値に比べ672万トン少なく見積もられている。そのうちオーストラリア及び米国の増産が著しく、それぞれ1.1倍及び19.63%増とされる。これに対し、カナダは10.18%減で大幅な減少とみられている。同年度の期首在庫は1億2,195万トン、小麦総供給量は前年度比1.48%減の7億3,210万トンと予測されている。また、同年度の世界の小麦消費量は、同0.17%減の6億2,007万トンとされ、うち飼料用は同4.56%減の1億418万トンと見積もられている。この結果、小麦生産量は需要量を満たすことができず、在庫の取り崩しにより期末在庫は同8.13%減の1億1,203万トンとなり、1978/79年度以来30年間で最低を記録すると予測されている。

2007/08年度の世界の小麦の在庫／消費比は、前年度比1.56ポイント減の18.07%と予測され、1960/61年度以来最低水準となり、国連食糧農業機関（FAO）の想定する食糧安全警戒ラインに接近している。同年度の世界の小麦輸入量は、同2.457%減の1億494万トンと見込まれている。同じく輸出量は、同0.85%増の1億742万トンで、うちオーストラリアは大幅な増産により輸出量が同12.5%増とみられ、米国は8%増、逆にカナダは14.1%減、EU27か国も11.1%減と予測されている。

4 国内の小麦市場は全体に安定、新収穫の麦価格は前年同期高

（1）卸売価格

2006年10月の国内小麦の短期流通構造変化は、市場供給の不足による価格上昇を誘発

したため、中国政府は直ちに最低買上価格小麦の入札を定期的を実施して小麦を放出し、企業の需要を基本的に満足させることができた。2007年上半期の国内小麦市場は、全体として安定的に推移している。6月28日までに、政府は2006年最低買上価格小麦の売渡入札を30回にわたって実施し、2,610.41万トンの売渡計画に対して実際の成約量は1,415.74万トン、成約率は54.23%、2006年最低買上価格小麦総量に占める成約量の割合は34.74%となった。

6月の市況は基本的に安定しており、鄭州市（河南省の省都）の食糧卸売市場における普通小麦（一般品質の小麦）の卸売価格は、1トン当たり1,503.75円で、前月比0.30%安、前年同月比6.74%高となった。同じく優良小麦については1,623.75円で、前月比0.23%高、前年同月比0.39%高となった。1～6月の普通小麦の平均卸売価格は、前年同期比3.47%高の1,500.47元、優良小麦は同2.05%高の1,643.29元となった。

（2）買上価格

6月は新収穫の麦の買い上げのピークとなり、河南省など6省で、6月1日から最低買上価格による買い上げが次々と実行された。2007年も国有食糧企業による買い上げが流通の主要ルートであり、買上量も前年同期を上回り、加工企業等その他の市場買い付けも前年より活発である。統計によると、6月30日までの河北省、江蘇省、安徽省、山東省、河南省、湖北省、四川省及び陝西省の8小麦主産省における国有食糧企業の買上量は、小麦購買量全体の93%を占め、前年同期に比べ増加した。最低価格による買い上げを実施した6省の食糧備蓄委託倉庫の最低価格買上量は、全国の国有食糧企業の買上量の89%となった。6月には新収穫麦の市場出回り量が増加し、主産地の小麦買取価格はやや低下したものの、いまだ比較的高い水準にあり、冀魯豫3省（河北省、山東省及び河南省）の平均価格は、100斤（1斤＝約500グラム）当たり約75.89円で、前月比0.81%安、前年同月比12.56%高となった。

5 国際小麦価格比較的大幅に上昇、国内小麦との価格差は引き続き拡大

USDAの6月発表によると、2007/08年度における世界の小麦生産量は、前月に予測された数値に比べ、少なく見積もられている。6月以降、米国の小麦主産地では雨が多く、収穫が遅れており、生産量・品質ともに影響を受けるものと考えられている。東欧では、高温によりウクライナの約3分の2、ロシアの約40%の冬小麦が影響を受けたといわれる。世界の小麦需給は非常に逼迫しており、2007/08年度の世界の小麦期末在庫は、最近30年で最低水準になるものと予測されている。こうしたことから、小麦の国際現物価格は市場最高値を記録し、最近10年で最高水準に達している。

【現物取引】6月の米国メキシコ湾における硬紅冬小麦（蛋白質含有量12%）の平均港湾価格（本船渡し価格＝FOB価格）は、前月比11.93%高、前年同月比11.52%高の1トン

当たり227.50ドルとなり、上半期の平均F O B価格は、前年同期比10.30%高の211.43ドルとなった。同じく西北太平洋における硬紅冬小麦（蛋白質含有量14%）の平均F O B価格は、前月比8.32%高、前年同月比15.62%高の240.20ドルとなり、上半期の平均F O B価格は、前年同期比11.52%高の224.09ドルとなった。

【先物取引】 6月のカンザス先物取引所における硬紅冬小麦の平均先物価格は、前月比16.91%高、前年同月比16.48%高の1トン当たり204.99ドルとなり、上半期の平均先物価格は、前年同期比14.04%高の2,183.65ドルとなった。6月のミネアポリス先物取引所における硬紅春小麦の平均先物価格は、前月比10.31%高、前年同月比27.23%高の1トン当たり211.42ドルとなり、上半期の平均先物価格は、前年同期比22.87%高の190.80ドルとなった。

6月の国際小麦価格は比較大幅に上昇し、国内の優良麦価格との差は引き続き拡大した。関税、増値税及び港湾諸経費などを含め総合的に考慮すると、6月の米国メキシコ湾における硬紅冬小麦（蛋白質含有量12%）の通関渡し価格は、同月の国内優良小麦の消費地における卸売価格に比べ、1トン当たり800元以上高く、前月に比べ価格差が190元近く拡大し、6カ月連続で価格差が広がることとなった。